【事業所名】　足立区谷中デイ・サービスセンター

Ⅰ　事業運営の基本方針

|  |
| --- |
| 機能訓練、レクリエーション活動、外出、農園活動等を通してその方が持っている能力を引き出し、居心地の良い空間づくり・個別ケアの充実を目指す。安心して家庭での生活を継続できるよう心身機能の維持を図り家族の介護負担の軽減を図る。 |

Ⅱ　中期的目標

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 内容 |
| 1．安定した稼働の維持 | ショートステイや病欠などの対応として利用者の実数を増やし、稼働を安定させる。 |
| ２．定期的な研修の機会 | 認知症についての研修を定期的に行うことにより、職員のスキルアップや利用者サービスの向上を目指す。 |
| ３，地域交流の強化 | 特定した中学校だけではなく、保育園など地域での交流を図り、地域と良好な関係作りに繋げる。 |
| ４．認知症利用者への理解の強化 | 認知症ケアプログラムを活用し、利用者の行動、心理状態を把握し個別ケアに活かす。 |

Ⅲ　年間計画（進行管理表）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | １０月 | １１月 | １２月 | １月 | ２月 | ３月 |
| 年間計画 | 〇職員への取組　：　法人内研修　施設内研修（さのデイと合同で実施）　外部研修　担当内での認知症研修　認知症ケアプログラム　ストレスチェック　健康診断〇地域社会への取組　：　谷中中学校交流　ボランティアの受けれ　その他保育園等地域の方との交流〇利用者への取組　：　筋力強化のための器具等の導入　担当会議（ケース会議）　〇経営基盤強化への取組　：　運営会議（毎月）　科学的介護推進体制加算の導入 |

Ⅳ　事業の計画

|  |  |
| --- | --- |
| 事業の概要 | 取り組む課題 |
| **１　利用者サービスへの取組** |
| （１）人権尊重の徹底法人理念の「お客様の今」を大切にし、利用者の意思を尊重したサービスの提供 | ・活動やその他デイで過ごす時間の中で、利用者自身が選択できる機会を作り、その意思を尊重すると共に、個別性をもった支援の継続 |
| （２）苦情解決・相談体制の整備利用者、家族、各事業所等からの意見に対し、迅速・丁寧に対応することで不安や不信感の解消に努める。 | 1. 相談や苦情があった場合は、担当者を設置し謝罪、説明など迅速に対応する。
2. 認知症対応に関する知識を深め、利用者、家族の不安を解消する対応ができる人材育成を図る。
 |
| （３）事故防止対策ヒヤリハット・事故報告の分析を行い、事故を防止していく。 | 1. ヒヤリハットや事故発生の都度、担当内で今後の対応等検討する体制を作る。
2. 利用者のＡＤＬ等に関する事項は、担当会議などで共有し、対応を検討する機会を設ける。
 |
| （４）サービスの質の確保利用者の個別性の強化。利用者の有する力を引き出し、日常生活を維持できるように援助する。 | 1. 毎月の担当者会議にてアセスメントを実施して、利用者状況を職員間で共有し統一した支援が行える体制を作る。
2. 新規に脚力強化のリハビリ機器等を導入し、筋力の強化を行い、生活動作の維持や運動機械の確保を行う。
3. 職員の認知症研修を年4回実施し、利用者対応の質の向上を図る。
 |
|  |
| **２　職員への取組** |
| （１）人材の確保・育成・定着働きやすい環境や研修による職員のスキルアップ | ①　職員間のコミュニケーションを活性化し、相談しやすい風通しのよい職場作り②　定期的な研修により、職員の知識を増やしスキルアップを図る。 |
| （２）人材の活用ボランティアの受入 | ・楽器演奏や喫茶など活動ボランティアの受入拡大や傾聴等のボランティアを積極的に受け入れ、利用者の個別対応や活性化につなげる。 |
|  |
| **３　地域社会への取組** |
| （１）地域貢献避難訓練の実施。担当職員の災害対策について確認し備える。 | ・地域交流（中期目標にもありますので、の場に参加し、地域への情報発信を図る。・年２回の防災訓練。災害時使用する無線の管理。 |
|  |
| **４　経営基盤強化への取組** |
| （１）収入増への取組 | ①　サービス提供日数の増回、ワンデイ等を可能な限り受入し、稼働率７２％以上を目指す。②　科学的介護推進体制加算を6月から取得できるよう、申請や利用者説明の準備を整える。 |
| （２）コスト削減への取組 | ・手作業、レク用品等、現在あるものを活用し購入物品を選定する。節電、節水を心掛ける。 |
| （３）災害・感染症対応 | ・マスク、手洗い、消毒の徹底。換気扇を使用し常時換気を継続 |